

Ⅲ 早期種苗中間育成試験

早期種苗を生産し、それを本土に向けて出荷する事を企図する場合、仔稚魚を需要サイズに至るまで効率よく中間飼育する技術を確認する必要がある。

材料と方法

1) 生簀様式と沖出し方法

海面小割生簀は大きさが $14 \times 14 \text{ m}$ 、鉄パイプ製一基でその中に田の字型に配置した生簀区画 ($5 \times 5 \text{ m}$) 4面を使用した。生簀設置場所は石垣市川平の北西に位置した底地湾で沖合い約 400 m 水深約 8 m のリーフ内で潮汐流による若干の流れがある。

沖出し方法はポリ容器 (容量 75 l) に海水 20 l と稚魚を收容し、車、船を乗り継いで輸送、取り上げから生簀收容まで約 30 分 を要した。尾数計数は容器收容の時に同密度になるように努め、その内から2容器内の稚魚数を正確に計数し、その平均値を輸送回数と乗じて算出した。

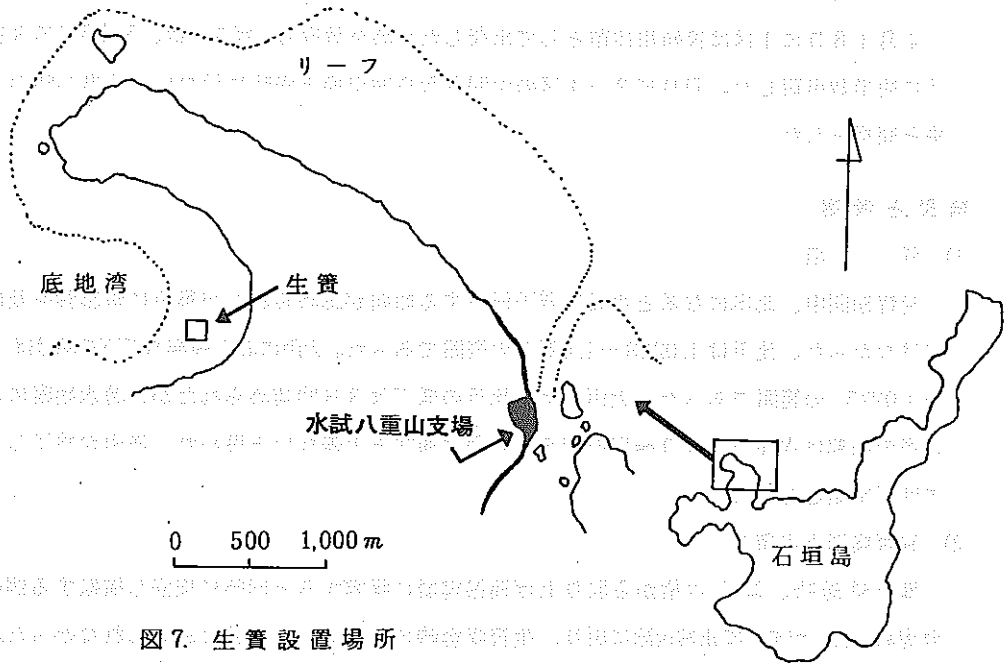


図7. 生簀設置場所

表7. 生簀への收容状況

区分	沖出し月日	沖出し尾数	收容密度	平均尾叉長
		尾	尾/t	mm
1	3月21、22日	28,800	445	14.6
2	3月28日	60,000	927	14.8
3	3月28、31日	19,200	297	15.7
4	3月31日	105,600	1,631	16.2